

うるわし通信



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

令和5年03月

東日本大震災から12年目の春—あの思い今もなお—

2011年3月下旬でした、宗教僧が桜井駅を行き交う人に何かを叫んでいました。私は県議会議員選挙を控えて市民に訴えていたのですが、耳を澄ますと、どうやら3月11日の原発事故のことで「寄付をお願いします」と言っていたことが印象に残っています。

私が部落差別を始めとした人権活動と桜井市の自然景観保護に取り組んで、県議会議員となり最初の活動が反原発でした。テレビニュースでは何かといえば原発事故です、私も団体を作って活動したいと思っていた頃、反原発に取り組む県民の方から誘いが来ました。

初めてその集会の会議に行きますと、私にいきなり「事務局長を引き受けてくれ」と言われ、それから毎月1度の学習会と情報交換会に参加し、部落解放運動の『両側から超える』というスローガンを支えに、せっせと活動に励みました。また、県議会で超党派の反原発の奈良県議会議員連盟を立ち上げました。

議連では、青森から福井まで視察に行きました。福井の原発視察で印象なのは、関西電力と地元の地方自治体の元副町長が癒着をしていることを地元議員から聞き、地元議員が元副町長を批判するのは構わないが、それで部落解放同盟の印象を落としたら同盟員に申し訳ないと同盟を弁護したことや、その案内役に失礼ながら反論したことが思い出されます。

その後、桜井市では「脱原発桜井の会」会長浅川肇氏に代わって平等寺副住職の丸子氏が会長になってくれました。私は、彼の姿勢に惹かれるところ大であり、彼はよく桜井駅で署名とカンパを市民にお願いしておられますが、その回数には驚かされます。今も続けておられ、「根気よく頑張っているなあ」と感心しています。

街頭行動に参加して反対の意志を示すのは必要だと思います。「脱原発桜井の会」は、現在「エネルギーの今を考える会」として活動を継続されています。

市民の皆さんも、応援と協力をしていきましょう。

奈良県議会議員 和田 恵治



“カレー”

あの日、あの時、自分は学校の2階で算数のテストの真っ最中で、一人の男の子が「地震や」と叫び教室が確かに揺れた。その後、職員室に戻るとみんながテレビの前で、信じられない映像に固唾をのんでいた、画面に向かって「早く逃げて、早く」と届かない声を絞り出している職員もいた。

3月11日の震災後、8月になって桜井市の教職員の仲間たちと現地へ向かうことができた。4日間、ひたすら三陸鉄道や家屋の瓦礫の片づけ作業を行った。被災者の方と交流したいとか子どもたちにも出会いたいとか思っていたが、そんな甘っちょろい状況ではなく、写真を撮ることすらはばかれる空気を全身で感じた。

釜石での活動を終えて、奈良への帰路の途中に、メンバーの親せきの方がおられる福島に立ち寄った、しかし、ここでもまた自分たちの甘さを痛感することになる。福島原発から遠く離れた地域に親せきの方は住んでおられ、私たちを歓迎して下さい

(ように思っていた)、お世話になったお礼に三輪素麺を送ったが、そのお礼の返信には親せきの方の苦悩がしたためられていて『私たちを受け入れてもいいものかすごく悩んだ』、『桃とかを送りたいが汚染されていないか、逆に迷惑をかけてしまうかもしれない』などが記されていて、そんな現地の方の深刻な思いを受け止められていない自分が情けなかった。

次に訪れたのはその年の12月で、すごい吹雪と積雪の中を遠野市に向かう。今回は寒さの厳しい仮設住宅へ部屋の大きさにピッタリ合うように畳を敷くのが任務であった。仮設住宅に独りで暮らしているお年寄りの方、小さい子どもさんがおられる家族など、どこのお家でもみんな私たちの活動をととても喜んでおられました。老夫婦のおうちで活動しているとき、「たいしたことはできないけど、これ食べて」と昼食にカレーを作ってくれました。大袈裟じゃなくニンニク入りのそのカレーは、今までに食べたどのカレーよりも美味しく、まさに心も体もとろけてしまった。カレーを食べながらポツポツと話されるおじさんの話を聴きながら、「東北に当たり前の日常に戻るまでは自分はカレー断ちをしよう」と密かに決めた。

2015年8月、一部再開した三陸鉄道に乗車して、自分の“カレー断ち”を終えることにした。当たり前の日常、そして原発に依存しない日常がきっと来るはずだと思っていたが、とんでもない時代に逆戻りどころか、さらに原発依存が加速されようとしている。このままでは、福島のおじさん、釜石のおじさん、おばさんに合わせる顔がない。怒りの声、命を守れの声、みんなの声を聴けという声、その声は絶対に断たない！

震災ボランティア 中森幹也



仮設住宅での作業風景

何のため？

ポツポツと雨が降り始めた。福島第一原発が煙を上げてから十日程経っていた。

掃出し窓から子ども達と灰色の空を見上げる。「黒くはない」と思った。

千葉埼玉に跨る東葛地域上空に溜まっていた放射性プルーム雲の上から、雨が降った。

その日を境に日常が変わっていく。水道水からセシウムが検出され、スーパーやコンビニから水が消える。水を探しに出る。

次女が生まれてひと月、寂しかったのか長女と一緒にいくと聞かなかった。繁華街の自販機で見つけた水。喉が渴いたと言う長女に飲ませてしまう。行き交う人を背にマスクを取り水を飲む長女の姿が、スローモーションで再生される。

雨が降った日、市川市にあったモニタリングポストは、通常2桁のところ2万を超える数値を出していた。2日後1万台、3日後は7千台。市川市より放射線量が高い柏市はどの位になっていたのだろう。

あちこち回り数本の水を手に入れ帰宅した。念の為、着替えて授乳する。秋に汚染を認めた柏市は、ガイガーカウンター等の貸出しを始める。

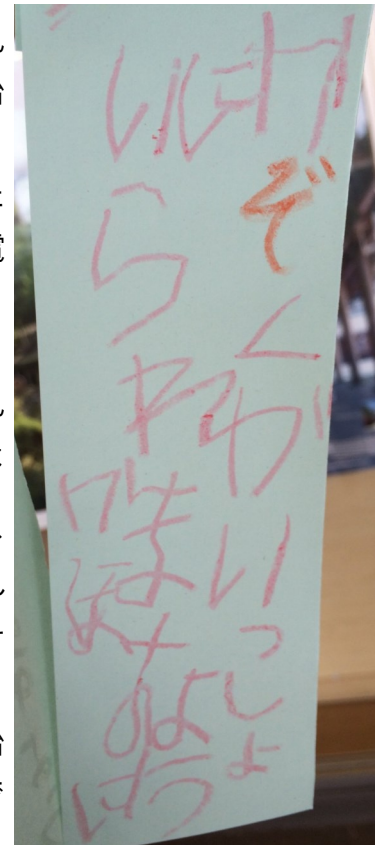
授乳していたベッドサイドが高線量だと判るのは後の事。着替えただけではダメだったのだ。頭髮から次女に降り注いでいたのだ。停電の合間をぬって1ヶ月健診の連絡が入る。この時、この高線量の中、外へ出してはいけなかったのだ。

庭の芝生の草引きや側溝掃除をした後は鼻血が一週間続いた。授乳の傷は治らず鉤十字のように割れた。甥がサッカーで負傷した膝はかさぶた瘡蓋が出来ないと言う。鼻血が続く話を見聞するようになり、クラスメイトが就寝中に嘔吐した話を聞いた翌朝、長女も食事中突然こぼれるように嘔吐する。もっと早く気づいていれば。水を探しに出なければ・・・。

次女の下痢は関西に来ると止まったが、戻ると1ヶ月もしないで始まった。その間隔も短くなっていく。次女の試練はまだまだ続く。でも沢山の方に助けて頂いた。

母子避難12年目。感謝してもしきれない。お金が無くても、知人が居なくても、トイレが水浸しでも、そんな事は何でもなかった。安全な所で子ども達が元気に健やかに育ってくれば、それだけで良かった。長女は先日18歳に、次女は春に中学生になる。だが家族離れ離れのまま、今後の見通しは立たない。元通りにはならないのだ。

何万人もの人が、今でも根無草の様に生きている。声は届かない。何事もなかったように、何事も起こる事などないかのように、原発政策転換が閣議決定された。野澤 恵美子



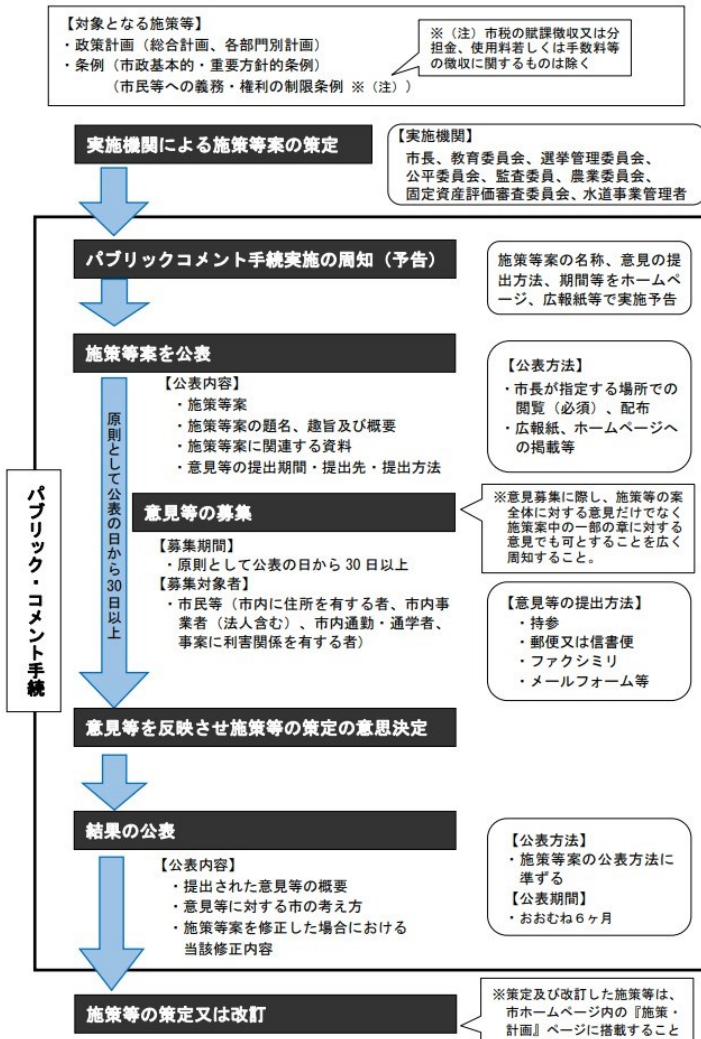
「かぞくがいつしよにいられますように」

編集子のつぶやき

本「通信」で、桜井市でのパブリックコメントについて紹介し、市民の声を反映する取組みを呼びかけた。今回は、昨年12月14日（水）から今年1月13日（金）までの期間で、①桜井市子どもの貧困対策計画（案）②桜井市人権施策に関する基本計画（案）③第2期地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）などについて、パブリックコメントが実施された。市役所1階ロビー、市役所3階情報公開コーナー、市保健福祉センター「陽だまり」、市立中央公民館、市立図書館で、資料閲覧が呼びかけられ、また桜井市のホームページでも資料の提供がなされていた（現在は終了しているので、見ることは不可となっている）。

このパブリックコメントにどの程度の市民や関係団体等から意見が出されたのか、2月25日段階では、まだ公開がされていないので分からないが、「提出された意見等を考慮して、施策等の策定の意思決定を行い、1、提出された意見等の概要とそれに対する市の考え方 2、施策等案を修正した場合は、当該修正内容などの事項を公表します。」と規定されている。

パブリック・コメント手続の流れ（フロー図）



残されていて見る事が出来る所も多いので、【募集の結果】の欄は、10年程度見られるようにしておいて欲しいものだ。

編集子も、上記の事柄について、若干の意見を提起しているので、どのようにそのことが反映されるのか、また、これまでのように「木で鼻をくくった」ような「今後の課題である・・・」といった、回答になるのか見守っていきたい。

必ずしも市民の関心の高いとは言えないパブリックコメント制度ではあるが、「市民参加の機会を拡大し、市の政策形成過程における公平の確保と透明性の向上を図り、市民との協働による市政の推進が目的です。」と市のホームページで定義づけられている。

編集子は、特に透明性の確保を重要と受け止めている。上記の計画（案）づくりは、それぞれの審議会や検討委員会で論議がされて計画案が作成されているが、その経過が議事録の公開などが添付されないままパブリックコメントでの意見募集なので、是非とも議事録の公開を併せて行われることを希望する。

それと共に、桜井市のパブリックコメントの欄は、公募に対して出された意見、それに対する市の見解が示された後、短い期間でその記録が削除されてしまう。他の自治体では、長期に（編集子 楠木）

うるわし通信発行人 ひがし俊克
 TEL:090-3652-8104